

大雪山の火山活動解説資料（平成29年8月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～4）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上 100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

30日から31日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口はこれまで同様、複数の噴気孔で、噴気温度が100℃以上の状態が継続していました。噴気孔及びその周辺の状況に特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

18日02時48分頃、旭岳付近の浅い所を震源とするマグニチュード2.1（暫定値）の地震が発生しました。気象台の聞き取り調査によると、山麓の旭岳温泉で揺れを感じたとのこと。大雪山で揺れを感じる地震が発生したのは、2011年7月29日以来です。この地震の前後で地震活動の活発化はなく、監視カメラによる旭岳爆裂火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

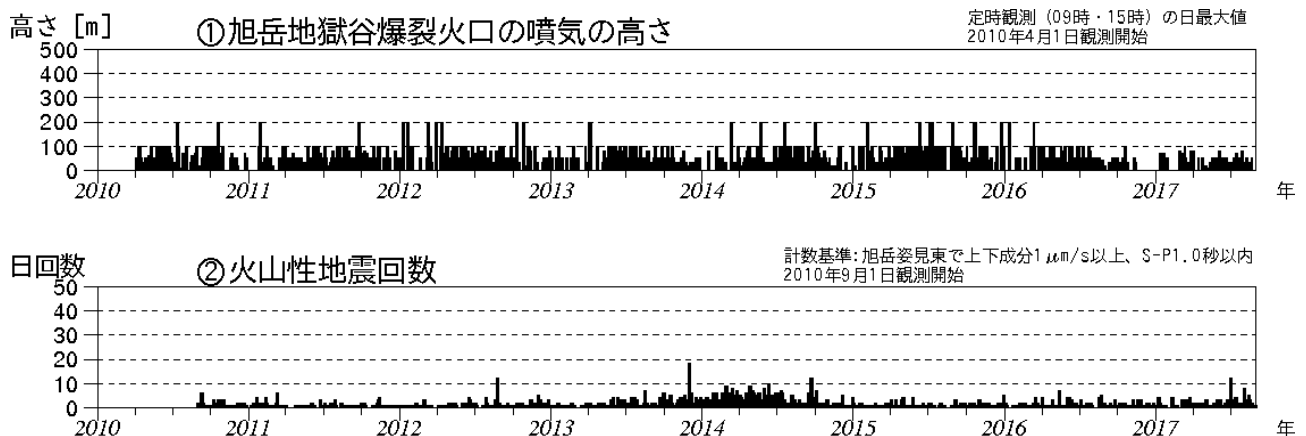


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2017年8月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平26情複、第658号）。

次回の火山活動解説資料（平成29年9月分）は平成29年10月10日に発表する予定です。

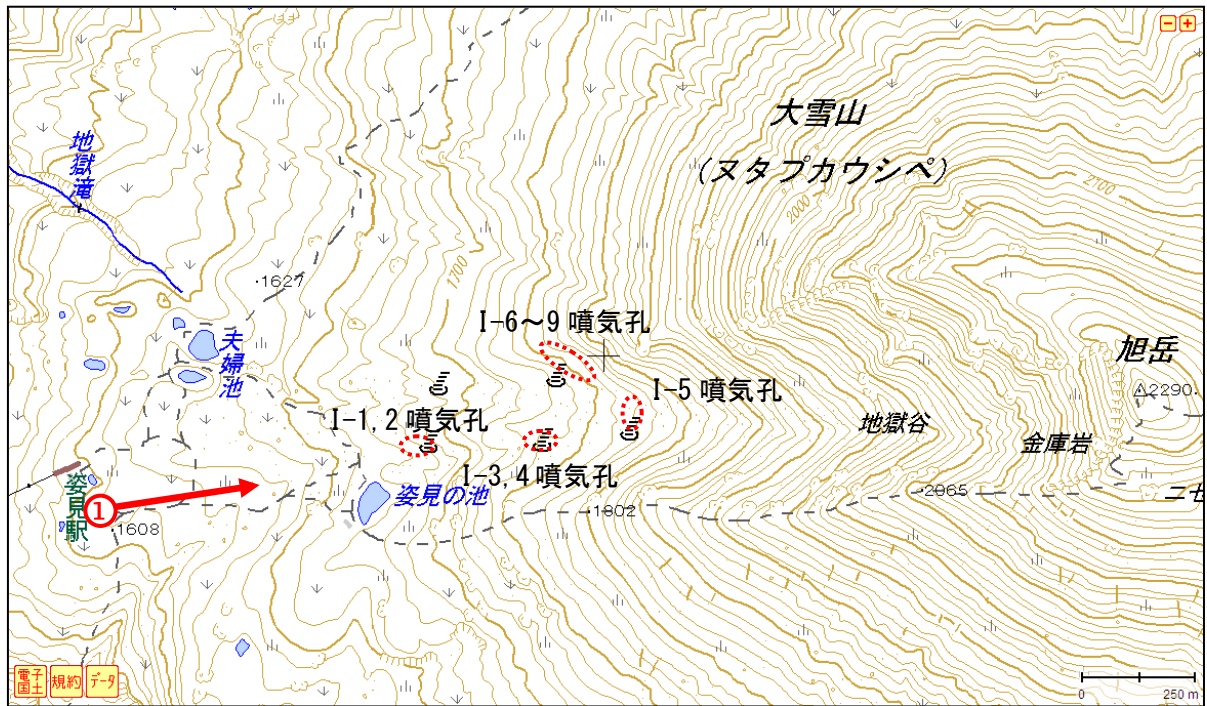


図 2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向

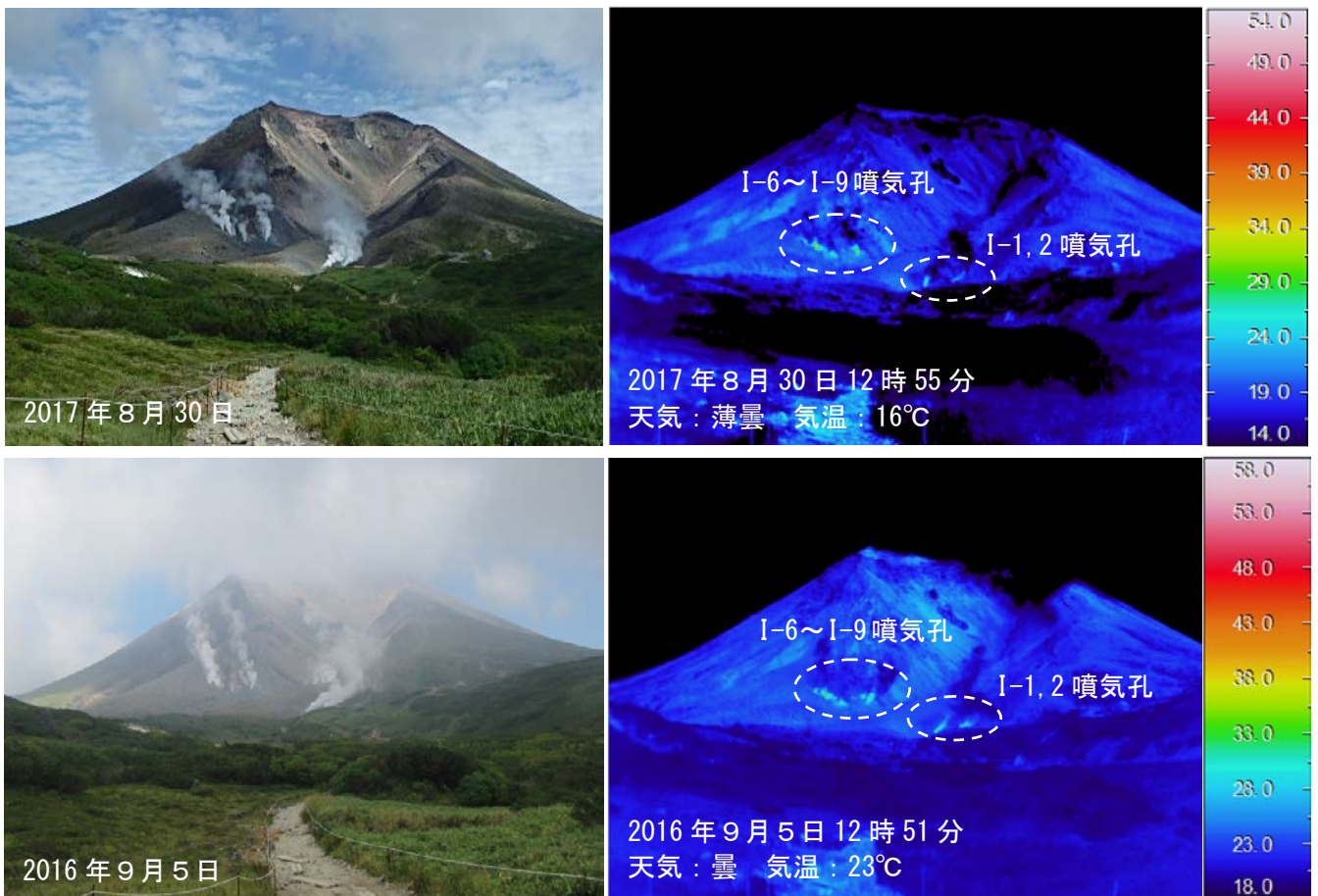


図 3 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
西側（図 2 の①）から撮影
・旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布の状況に特段の変化は認められませんでした



図4 大雪山 西側から見た旭岳の状況（8月30日、忠別湖東^{ちゅうべつこひがし}監視カメラによる）

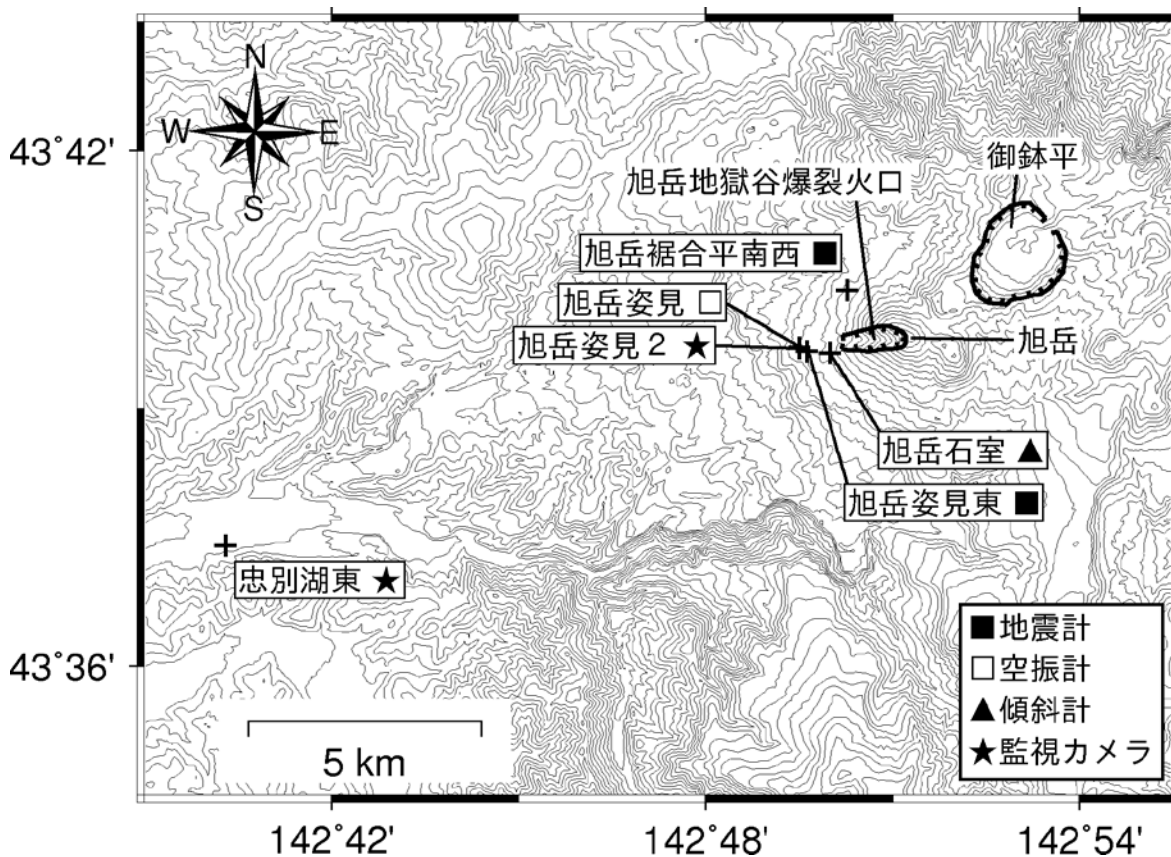


図5 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します